
大人な眼力トレーニング。

国後旺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大人な眼力トレーニング。

【Nコード】

N1369K

【作者名】

国後旺

【あらすじ】

後頭葉を刺激して生まれた戦士の話。

テレビで言ってた。

「ケツの穴に指入れると奥歯ガタガタ鳴って後頭葉が活性化します。あつ、お花畑え！」

と言ってた、とリビングで佐藤に話した。
半信半疑だったので実験したかったのだ。

佐藤に入れてと腰を曲げてケツを突き出した。

「でも後頭葉が活性化したところで、なんになるの？」

佐藤は疑問を投げた。水をさした。

それを確かめる為の実験だろうが。「ばかたれえ」と腰曲げ状態から足首を軸にきゅっと回転回転回転を繰り返し回り込み、指で佐藤のケツを、ズボンを貫き刺した。

「あつ、お天国う！」

佐藤は後頭葉を活性化させてぐったりした。なに、お天国だと。

こうしてはいられない。俺もいくしかない。そういう思いが胸中で盆踊りする。突き出したケツに突き刺した。あふん、足りない。俺の力だけでは足りない。やはり自分で刺してもオートマチックに防衛反応が作動してしまう。ファミリーマートで門前払いを食らったようなショックである。

しょうがないからポスターを作って街中町中村中王国中に張りまくった。広告文字はもちろん「ケツに指を突き刺して」である。不器用なポスターである。

誰も来なかった。やはりバーコード頭の私がケツ毛を剥き出しにしてアップにしたポスターでは無理があるらしい。街中町中村中王国中のを破り捨てて燃やしてきた。やはり自分の興味を他人に渡すのは間違いだった。私は指いっぱい泡を塗り、ちゅるちゅるにした。さした。以前より奥を突けた。私は白目を向いた。そして出るために内部で肛門近くに待機していたウンコが全身をめぐり、肌を一気

に照り輝く茶色に染め上げた。その衝撃で全身の毛が抜け落ちた。世界丸見えた。その衝撃で穴の中の指がズキューンと伸びた。天国の先の地獄の獄炎を口から噴いた。リビングが燃えはじめ、それを脱したいが穴から指が抜けなくて、念じて念じて念じてみたら体が宙を浮いた。そのままズキューンと空に向かって、かなた飛んでいた。

現在の彼は空を飛ぶことを禁じた戦いに身を投じ、異端キャラとして愛されている。

彼の名をダルシムという。

（後書き）

後頭葉の説明。

視覚中枢があり目で見たものをゲツチュウします。

後頭葉が駄目になると、モノは見えるけど、それがなんなのかわからなくなります。

例「目がっ、目があっ」

夜更かしも

ムスカのもとですよ。

みんな早く寝ましよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1369k/>

大人な眼力トレーニング。

2010年10月17日02時17分発行